

東日本大震災支援（2011年4月29日～5月31日、9月、10月11日に各2泊日）

まえがき(一部抜粋)

本格的な支援の前の現地視察で、被災地はまさに「戦場」であり、この災害はすべての日本人が心を一つにしてあたらなくてはならない緊急事態だと強く感じました。

少しでもできることはどんなことでも、と思う惨状でした。

しっかりと気合いを入れ「やる気がある人間なら、誰でも参加でき、何でもいいので、その役割を果たす本気のチームを作り上げたい」と考えました。

全員が力を合わせ、絶対にこの地域や東北の再建を、そして故郷・日本再建のために役割を果たせ、と覚悟を迫っているように思いました。この認識を持ち、秀峰会の全スタッフや多くの知人、友人と協議を重ねて「全員が強い使命感と断固たる決意を持ち、一生懸命被災者の方々のために行動しよう」という結論に達しました。

(中略)

今回のボランティア活動で、参加した各人が、医師として、看護師として、それぞれの職種として、また人間として、多くの事を感じ学ばせていただきました。

我慢強く、相手の立場に思いを寄せ、謙虚で、強靱で、しなやかで優しい心、そして泣き言を言わない被災者の方々に深く感銘を受け、改めて自分自身が日本人であることを意識し、強く誇れる想いがいたしました。

また、非常時におけるリーダーのあり方についても考えさせられました。

2013年(平成25)年12月

医療法人秀峰会 理事長 中村吉伸

あとがき(一部抜粋)

今回、延べ 809 名の人たちが被災者支援に立ち上がってくれました。私たちがやれたことはわずかでしたが、たくさんの患者様からも千羽鶴をいただき、多くの同志から励まされ、参加したすべての人たちから今回の支援活動中にも、後にも、感動のたくさんの言葉がありました。

心より御礼申し上げます。

何から何まで手探りで始めた支援活動でしたが、大勢の仲間と活動してみて、たくさん涙し、感動し、学び、チームワークを育み、今後に生かせるであろう大切なことを会得し、短期間ですべての職員が大きく成長することができました。

医療法人秀峰会 30 年の歴史の中で最大の経験ですし、宝物となりました。

このことを私たちだけの「宝物」にするのは大変もったいなく、被災者の方々や亡くなられた方々に申し訳なく思うのです。

また、支援に行きたくてもどうしたらいいのか迷っている方々や、もう一步踏み出せないでいる多くの組織の方々に、われわれの経験を一灯明にする責任と使命を痛切に感じました。

この本がこれからおきるかもしれない大災害の際に少しでも被災者の方々が救われ、ボランティアをする人々の勇気につながることを願い、感じたままを、できるだけオブラートに包むことなく書きました。

別の視点や立場から見ると違った意見、考えがあることも理解しております。

しかし、今後の被災者支援の際にきっと役立つことになる信じ、一地域の支援に携わった一民間病院の小さな組織の者たちが感じた正直な気持ちをできる限りそのまま書きました。

2013 年(平成 25)年 12 月

医療法人秀峰会 理事長 中村吉伸